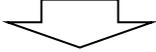


# 【保育の方法】～総合的な保育～

## ▼保育の課題

0、1 歳児	0 歳児 一人ずつ丁寧に関わる保育・・・受容〔自己肯定感〕
	
2 歳児	1 歳児 自我を大切にする保育・・・自己主張、自己発揮
3、4、5 歳児	みんなでやる楽しさやルールに気付かせる保育
	主体性を育てる保育
	自発的な遊びを通した保育
	一人ひとりの課題を大切にする保育

## ▼3つの発達の段階（ステージ）

クラスは年齢別に6クラスで編成されています。しかし、当園では乳幼児期の6年間を、まず次の3つの生活ステージに大きく分けて把握しています。

### ①0～1 歳児クラス

この発達の段階では、十分に行き届いた養護環境が重要な意味をもち、くつろいだ雰囲気の中で自発性の基礎を培うような保育に重点を置きます。（発達の状態に応じて、0歳児クラスと1歳児クラスが連動した保育集団を作ります）

### ②2 歳児クラス

この発達の段階では、自我の芽生えに伴う自己活動を十分に保障する環境の構成が大切になります。このため2歳児クラスは、独立した部屋になっています。

### ③3～5 歳児クラス

この発達の段階では、自発的な自己活動と友だちとの関わりが著しく発達します。そのため、子ども相互の関係づくり、とくに社会性をともなう集団活動の意義が大きくなります。個人の特性も差異が大きくなるため、一人ひとりの発達課題をはじめ、興味・関心（情意面）、習熟度（認知面や技能表現面）などに応じた「選択の機会」を多く用意しています。

## ▼生活のリズムを大切に

生活の主要な3要素といえる「遊び」「食事」「お昼寝」の遊食寝が、どのクラスも独立したスペースで行われます。これによって、一人ひとりの生活リズムを保障し、安心感や満足感、達成感をともなった自発的な活動を促すことができるようになります。また、いずれの場合も、家庭的な親しみとくつろぎの場となるようにしています。

## ▼異年齢集団の中での体験

年齢別のクラスを基盤にしながらも、0～1歳クラスと3～5歳クラスは異年齢の中で、一人ひとりの発達課題があった体験ができるようにしています。また大きいクラス（主に年長児）は小さいクラス（2歳児以下）で過ごすお手伝い保育を行う場面もあります。

## ▼自発的な遊びと主体的な活動

子どもが自発的で意欲的な遊びや活動ができるように、一人ひとりの発達課題に対応した空間(ゾーン)を用意し、興味や関心等によって自分自身で遊びや活動を選択できます。

## ▼食を通じた保育

食事は、基本的な習慣を身につけ必要な栄養やエネルギーを満たす養護としての役割にとどまりません。授乳、離乳食、昼食、間食、水分補給は、豊かな食文化や知恵の伝承でもあります。

また、クッキングなど「食をつくる活動」を通じて、社会事象への関心を広げるきっかけとしています。できるだけ食材の産地を子どもたちに伝えるなど、子どもたちたちが必要な食文化の体験ができるようにします。

子どもにとっての食事は、心身の発育だけではなく、情緒面の発達にも影響を与えます。乳幼児期は、日々の活動も活発で、大人に比べて体の割には多くの栄養を必要とします。また最近では、一人で食べることを好む「孤食」や「個食」の傾向が強まっているといわれています。そのため、保育園では、「食」を保育の一環としてとらえ、栄養のバランスを図るだけではなく、将来にわたって豊かな食生活・食文化を作り出していけるような基礎を培えるような工夫をしています。